



## インタビュー

留学生OB・OGとのコミュニケーションを通じて、さらには研究を介した交流拡大も視野に入れ、より質の高い国際交流の実現を目指す

## 研究室だより

歴史的な日本建築を、京都で学ぶ醍醐味

## 季節のたより

京の春夏点描

## 人物往来

- ・学問の“シルクロード”を歩こう
- ・7年間の思い出

## トピックス

- ・世界の料理ともちつき交流会
- ・イタリア政府奨学金により学生4名が短期留学
- ・京都工芸繊維大学国際交流会館(まりこうじ会館)でのダンス教室



京都工芸繊維大学  
国際交流センター

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地  
Tel:+81-75-724-7128 Fax:+81-75-724-7710  
E-mail:ab7128@jim.kit.ac.jp  
<http://www.kokusai.kit.ac.jp/japanese/>  
<http://www.kit.ac.jp/>

## 留学生OB・OGとのコミュニケーションを通じて、さらには研究を介した交流拡大も視野に入れ、より質の高い国際交流の実現を目指す

国際交流センター長・副学長

### 功刀 滋



KITではこれまで、世界約六十カ国から一、〇〇〇名以上の留学生を受け入れてきました。彼らのほとんどは現在も母国で研究を続けており、活動の中枢を担っているOB・OGも少なくありません。しかし本学と連絡がとれない人も少なくありません。これは実に惜しむべきことです。彼らの力をもってすれば、KITの魅力を広く世界に伝えることができるでしょうし、何よりも彼らが抱くKITへの感想や評価は今後の本学の国際交流に大いに役立つと思つのです。

そのような考えに基づき、国際交流センターではいくつかの取り組みをはじめています。ひとつは本冊子の創刊です。誌面には毎号OB・OGが登場していましたが、表紙には本学のメールアドレスも記載し、本誌を見た人が世界のどこからでも容易に連絡できるよつにしました。

つぎはネットワークづくりです。三年前には各国のOB・OGを招いて交歓会が開かれ、旧交を温めるとともに活発な意見交換が繰り広げられました。直後から韓国にはOB・OGの連絡拠点が設けられ、現在は、中国、ベトナム、タイ及び台湾にもOB・OGの運営によるキーステーションを設け、彼ら同士のコミュニケーションや消息のわからないOB・OG探しなどを主にインターネットで行っています。キーステーションにはこちらから公式情報を発信し、それを広めてもらう計画です。

KITではまた、JASSO(日本学生支援機構)が海外で主催する日本留学フェアに積極的に参加しています。その際に現地でもOB・OGと会合を持ったり、フェアを手伝ってもらいながら情報収集や意見交換を行っています。

研究を通じた交流の拡大も重要視しています。KITでは現在、「国際基幹技術者養成教育プログラム」を通して教員や大学院生を協定締結教育機関に派遣していますが、その際に指導した研究者を留学生として迎えたり、さらには現地の民間企業で活躍する研究者との産学共同を推進するなど、両者にメリットとなる「ポジティブなサイクル」を構築できればと考えています。

国際交流センターでは留学生交流と研究交流のそれぞれの業務を一体化しており、お互いの長所を補完しあうようなかたちで国際交流の質を高めていける体制が整っています。留学生の受け入れについても、マンモス大学には真似のできないKITならではのきめ細やかなケアで、よりよい学修研究環境が提供できるものと信じています。

#### 「京都工芸繊維大学国際学術交流クラブ」連絡事務所

国名	所在地(都市名)	代表者名	連絡先
中華人民共和国	上海南大蘇富特信息技术有限公司(上海市)	劉曉民 (リュウ・ショウミン)	住所/200063中華人民共和国上海市中山北路2052號振源大廈11F TEL/(+86)-21-5291-8340 FAX/(+86)-21-5291-5461 E-mail/liuxm@nandasoft-sh.com
大韓民国	嶺南大学校(慶北 慶山市)	具 剛 (クウ・カン)	住所/712-749大韓民国慶北慶山市大洞214-1番地 TEL/(+82)-(0)53-810-2785 FAX/(+82)-(0)53-810-4684 E-mail/kkoo@yu.ac.kr
ベトナム	ハノイ医科大学(ハノイ市)	Ta Thanh Van (タ・タン・ヴァン)	住所/Department of Chemistry and Biochemistry, Hanoi Medical University, Ton That Tung St. Dongda, Hanoi, Vietnam TEL/(+84)-4-5244421 FAX/(+84)-4-5743641 E-mail/tathanhvan@hmu.edu.vn
タイ王国	チャル・タイ・シルク有限公司バンコク事務所(バンコク市)	Saikwan Trisunan (サイクワン・トリスナン)	住所/Bangkok Office, Chul Thai Silk Co., Ltd. 1897 Soi 39, Phaholyothin Road, Bangkok, Bangkok 10900, Thailand TEL/(+66)-(0)2-579-0399 FAX/(+66)-(0)2-579-0112 E-mail/saikwan@chulthai.com
台湾(中華民国)	台湾紅茶股份有限公司台北事務所(台北市)	羅 吉平 (ラ・キッペイ)	住所/台湾台北市仁愛路3段24巷7号, 5F 台湾紅茶股份有限公司 台北事務所 TEL/(+886)-(0)2-2708-8717 FAX/(+886)-(0)2-2784-5590 E-mail/kojianne@ms15.hinet.net



## 歴史的な日本建築を、 京都で学ぶ醍醐味

造形工学課程長  
日本建築研究室教授

日向 進

日本建築史を専門とする私どもの研究室では、近世以降の建築物に見られる技術的特質の調査・研究のほか、歴史的建築物の保存・再生活動にも積極的に取り組んでいます。後者は、日本各地でその気運が高まっている「町並み保存」の事前調査にあたるもので、古い建物の価値を地域の人々に認識してもらうための素材づくりや、地域の特性にあわせた保存手法の策定などを主に行っています。

いままでに当研究室が関わり、「歴史的町並み地区」の選定を受けた例として、京都府加悦町(現・与謝野町)に残された丹後ちりめんの機屋や、丹後の伊根町に伝わる舟屋の町並みなどが挙げられます。

当研究室の扉を叩く留学生は、日本文化に大きな関心を抱き、日本語の習得にも熱心な学生が多く、その意気込みは研究テーマにも強く現

われています。たとえばフランスからの留学生が選んだテーマは「縁側」。内でもなく外でもない縁側の特性が日本建築を魅力的に仕立てていることに着目し、その社会的有用性を夏目漱石の原文をテキストに読み解き、日本語で論じるという

たいへん意欲的な内容でした。また、スウェーデン人の留学生は「京町家」をテーマに論文を書き、母国で博士号を取得しました。彼女は実際に京町家に住みながら、古くから町家に住む人へのインタビューも精力的に行っていたのが印象的でした。このほかにもメキシコやカナダ、ブラジル、中国からの留学生が当研究室で学んでいきました。

現在、研究室にはインドネシアからの留学生が在籍し、バリ島の塔建築の固有性を日本をはじめアジア各地のそれと比較しながら明らかにするという研究に取り組んでいます。今年の秋からは、アメリカ人の国費留学生が入室する予定です。

私は、留学生だからといって彼らを特別扱いすることはありません。「コミュニケーション」上、やむを得ない場合を除いては日本人学生と同じように接するよう心がけています。ところが留学生のなかには、日本人学生が知らない礼儀作法や言葉遣いを身につけている「古風」な人がいて、驚かされることもよくあります。また、ある留学生は「MOTTAINAI」からと割り箸を使うことなくいつも自分の箸を持ち歩き、これには私も学ぶところがありました。

最後に、当研究室に関心を持った人にメッセージを贈りたいと思います。歴史的建築物を研究するのに、京都はまたとない地です。街全体が生きた教材といっ

ても過言ではなく、歩いているだけで仕事になるという研究者もいるほどです。日本の歴史的建築を深く学びたい人は、ぜひ研究室の扉を叩いてください。そして大路小路を隈無く歩き回り、自分だけの「日本」を見つけてください。



フランスからの留学生  
Mares Emmanuelさんの論文  
「縁側の近代化〜夏目漱石の作品  
を通して〜」



# 京の春夏点描

古都・京都には、古式ゆかしい祭礼がいまも大切に受け継がれています。人々の心に感動と興奮を呼び起こし、季節の移ろいを彩る祭礼。それは、京都が世界に誇る宝物でもあるのです。

風薫り、新緑輝く五月十五日、都大路を舞台に華麗な王朝絵巻を繰り広げる「葵祭」は上賀茂神社と下鴨神社の例祭で、その始まりは六世紀の後半。「源氏物語」をはじめとする古典文学にも登場し、平安時代に「まつり」といえば「葵祭」のことでした。こんにちも祭は往時のままで行われ、十二単や衣冠束帯など宮中衣装に身を包んだ総勢五〇〇名の行列が、京都御苑から下鴨神社、さらに上賀茂神社までの約八キロの道のりを練り歩きます。

今から約千百年前の平安時代に始まったと伝わる祇園祭。七月一日に行われる無事祈願の吉符入りから、厄除けを祈る三十一日の夏越祭までの一ヶ月間にさまざまな祭礼が行われますが、クニイマックスはやはり十七日の山鉾巡行です。絢爛に飾られた、合計三十二基の山鉾が市内の目抜き通りをしすしと進む様はまさに勇壮かつ華麗。巡行前の十四・十五・十六日の夜には山鉾に幾十もの提灯が点され、コンチキチンの祇園囃子が鳴り響くなか、数十万の人並みが祭気分に酔いしれます。



## 学問の“シルクロード”を歩こう

浙江大学経済学部国際経済学科主任 教授  
(大学院工学部材料科学研究科博士後期課程機械科学専攻 95年卒)

顧 国達



人生はまさに流水のようで、終点の大海に向かって曲折ながら辛抱強く流れて行きます。美しい景色と豊かな伝統に溢れる京都にあり、百年以上の歴史を持つ学術個性鮮明な京都工芸繊維大学(KIIT)にて六年余りの留学経験は、私にとって最も思い出のある人生の流れの輝く一節です。

さて、KIITに留学するチャンスを得たことは、一九八七年七月、恩師である松本雄男先生と浜崎實先生一行三人が中国杭州にある浙江大学を訪問する時に通ります。其の時、蚕糸学科助手であった私は、改革開放による市場経済へ移行する中国の現状を意欲を先生たちに伝えたいところ、快く引き受けてくださいました。そのおかげで、一九八九年四月から文部省国費留学生として、KIITに留学し、私の学問人生の重要な第一歩を踏

み出しました。まさに縁ですが、よい時によい先生に出会ったことは私の幸せです。

留学生活の良い思い出が一杯ですが、特に年一回の実地見学旅行と「学長と留学生たちの懇親会」はよく思い出します。実地見学旅行は私にとって日本文化と社会理解の絶好のコースとなり、担当の吉井勉様を始めとする留学生係の皆様のご苦労には今も感謝の気持ちで一杯です。「学長と留学生たちの懇親会」は、母国を離れた留学生たちを大事にして、心強く励ますことは大学の国際的絆が強くなりました。そのようなよい行事をぜひ永く続けていくことを祈願しております。

顧みると、KIITにて留学した六年余りの間、私は理工系大学の産業経済研究室にて、学際的な知識の比較優位を發揮し、指導教官の方による御指導と隣の京都大学の学術資源を生かしまして、学会誌で公表した六通の論

## 7年間の思い出

大学院工学部材料科学研究科博士前期課程  
機械システム工学専攻

ムハマッド・イズハム・  
ビン・イスマイル



日本に留学することを考えたのは小学校の頃からであった。そのとき日本に対してあまり詳しくなかったし今思えば勘違いだらけであった。それでも、好奇心のある僕は日本を知りたいと思ってずっとそのことに向けて毎日の勉強に励んでいた。といつも決して日本に留学できるように意識しながら勉強していたわけでもないが、なんとなくいつかここに辿りつくであろうと思っていた。時が経ちあつたという間に高校を卒業した。そのとき日本への留学の予備校に入学できて準備ができた。二年間も毎日八時間の日本語の講義であった。日本についての最初の日は今でも鮮明に覚えている。春なのになぜか冬の寒さがあった。寒さにまだ慣れていないと先輩に言われて安心したが、今考えたら慣れ

ないものだと思つた。

マレーシア人留学生は一般的にマレー系の人が多く漢字が日常に使われることが多かった。というよりも「漢字」という字自体が稀な存在ということすら感じられる。日本にいた最初の難関は言葉の壁であった。あの二年間の勉強はいかに足りないものであることにショックを受けた。着いた日から、まるでマレーシアでの予備校と同じように新たな勉強が始まった気がした。それでも今思えばよくもここまでこれたなと自分自身も信じられないときもある。このことに対してもっと日本人側に気づいてほしいなと思う。僕らマレーシアの留学生がやり遂げたことが半端ではないことを認めて、勉強のことや生活のことでもっと支援してほしい。といつても必ずしも経済

文を基に、「中国の生糸貿易と世界生糸市場の需給構造に関する経済分析」の博士論文を纏め、順調に一九九五年三月に学術博士学位を受け取りましたことは、私の学問「シルクロード」の出発点となりました。

KIITを卒業し、帰国してから早くも十一年が経ちました。この十一年間は中国経済成長の躍進期であり、私の学問人生の黄金期でもありました。現在、私はKIITでの留学経験と学識を生かしまして、中国の名門大学である浙江大学経済学部国際経済学科主任教授の重い責任を負いながら、国際経済と貿易の分野で、比較優位を發揮し、自分なりの学問「シルクロード」を歩き続けております。また、日中両国間の学術交流と日中友好、そして母校の更なる発展のためにも頑張り続けるつもりです。どうか、ご後援のほどよろしくお願い申し上げます。

的な支援ではない。もっとも大事なものは日本での勉強方法、つまり大学の制度や単位の修得方法や先生との付き合い方など社会習慣の案内だと思つた。

僕にとっては、日本で学んだことや経験したことが非常に人生に強いインパクトになった。マレーシアでも僕の家族は父の仕事の都合で点々としていた。そのため一つの場所に長居することがあまりなかった。しかし、七年間近く京都に住んで、僕の人生の中でもっとも長い時期になった。正直な話、京都の方がマレーシアよりも詳しいといえるであろう。だから、日本、あるいは京都が僕にとって実家に近い存在である。これからはもっとそうであってほしいと思つている。京都工芸繊維大学、京都、そして日本は僕にとってかけがえのない存在である。

## 世界の料理ともちつき交流会

12月27日、国際交流センター主催による「世界の料理ともちつき交流会」が大学生協の軽食堂アルスで開催されました。これは、日本の年末の風物詩である「もちつき」を留学生等が体験し、また、留学生の手による各国料理を日本人学生等が楽しむという、双方向の交流を深める場として、本年度初めて開催されたものです。

もちつきは、熟練スタッフの指導の下、多くの留学生や日本人学生が初めて挑戦しました。見ていっただけでは簡単そうでも、実際についてみると思いのほか難しい！けれども、なかなかりっぱなもちがつきあがりました。しかも、つきたてのもちをその場でいただくおいしさは格別です。

貸し切りのアルスの厨房では、イラン、中国、韓国、ベトナムの学生が自慢の腕を振るってバラエティ豊かな料理を作りました。交流会場のあちこちから「おいしい！」という声が聞かれ、どのお皿もあっという間に空っぽに。

なお、参加者の手洗い及びアルコール消毒を徹底するなど、特に衛生面に配慮したことは言うまでもありません。

120名を超える留学生、日本人学生、教職員が来場した交流会には、学長始め役員も訪れ、初めての試みながら大いに盛り上がりしました。



## イタリア政府奨学金により学生4名が短期留学

「イタリア政府給費留学生」は毎春、イタリア文化会館で公募されるフレキシブルなスタイルの留学制度で、専攻分野も様々であり、イタリアでの留学先、時期、テーマは自らが計画するユニークな制度です。希望者は直接応募し、イタリア語又は英語での口頭試験、専門試験を受けます。昨年合格した本学修士課程1年生(現2年生)・セラミック物理学在籍の4名(北村一剛、東野政幸、古川尚英、森川崇子)は、晩秋~2ヵ月ばかりエミリアロマニア州ファエンザ市にある伊国立研究所ISTEC-CNR(セラミック材料専門研究所)で留学体験をしました。CNRは本学内にある日伊研究所(所長・Prof. G. Pezzotti)の共同研究先です。4名のテーマは全てセラミック物理学及び力学関係でしたが、イタリア人以外の多国籍の留学生とも異文化交流を楽しみながら研究に打ち込みました。又数多くの遺跡や名所を訪ね、古い歴史と共存する現地の人々の自然な姿に感銘したといいます。歴史ある京都の未来にヒントを見つけたように思える貴重な体験でした。



## 京都工芸繊維大学国際交流会館(まりこうじ会館)でのダンス教室

2006年12月から、毎週土曜日の夜に京都工芸繊維大学国際交流会館(まりこうじ会館)において、入居留学生主催によるダンス教室が開催されています。

これは、ベトナム人留学生のグエン・チュン・ズンさんが講師となって、タンゴを含む4スタンダードダンスとサンバを含む4ラテンダンスを教授しているものです。

受講者は主に当会館の入居者で、ベトナム、ドイツ、中国、メキシコ、タイ、インドネシア、スイス、ブルネイ、日本と多国籍に渡っており、まさにまりこうじ会館においてスポーツの国際交流が行われています。



### 国際学術交流クラブについて

このクラブは、本学の卒業及び在学外国人留学生、元・現国際訪問研究員、学術交流協定校の教職員など多くの方々により組織されている世界的なネットワークで、本学が国際社会の学術的な発展と科学技術の振興に貢献するための一翼を担うことを目的としています。

入会のお申し込みについての詳細は、本学のホームページを御覧ください。

[http://www.kit.ac.jp/07/07\\_070000.html](http://www.kit.ac.jp/07/07_070000.html)



### 国際企画課

国際企画課は、国際交流センターに関するすべての事務を担当しております。皆様からのご連絡を課一同お待ちしております。